

告辞

東京農工大学を卒業される皆さん、また本学大学院の課程を修了される皆さん、おめでとうございます。本学教職員を代表し、心よりお祝いを申し上げます。本学で過ごした数年間において、皆さんは楽しいことや辛いこと、さまざまな経験をしてきたと思います。9月卒業・修了というのは、春とは違った達成感があります。皆さんそれぞれ違う理由で、この晴れの舞台を迎えていると思います。挫折もあったでしょう。高い目標に向かって早く次のステップに上がる人もいるでしょう。様々な経験を経て、皆さんは逞しく成長したと思います。しかし、ここまでやってこられたのは、皆さんだけの力ではありません。皆さんが学業に励んできた間、常に皆さんを優しく見守り支援してくれたご家族、友人その他関係者の方々にも深く敬意を表します。

本年は、学士号取得者が農学部1名、工学部5名、修士号取得者が工学府博士前期課程5名、農学府修士課程17名、生物システム応用科学府博士前期課程3名、博士号取得者が工学府博士後期課程10名、生物システム応用科学府博士後期課程8名、連合農学研究科博士課程17名、論文博士1名、計67名が本学から巣立って行きます。皆さんの進む道は様々です。さらに学業を極めようとする人たちは、上の学年に進み、今まで以上に勉学に励んで下さい。社会に出る皆さんは、今までの学生生活とは大きく異なる新しい世界が待っています。これまで習得した様々な知識・経験を存分に発揮し、東京農工大学を卒業・修了したプライドを持って堂々と社会で活躍して下さい。本学を巣立った多くの先輩たちも様々な方面で元気に活躍しています。しかし、良いことばかりではないでしょう。行き詰まったり、大きな困難が降りかかってきて、不安になることもあるでしょう。その時はたくさんの友人や本学の教職員に相談しに来てください。我々は皆さんを暖かく迎え、できる限りの協力をします。母校とはそういうものです。そうして困難を克服したときは、皆さんの後輩が同じように悩んでいる時に、温かい手を差し伸べてして下さい。こうして本学の卒業生の絆が強くなってゆくと信じています。

そうはいつでも、近年の技術革新の速さはすさまじいものがあり、社会はどんどん変化しています。現在の職種の多くは AI 技術やロボットが行うようになると予測されています。そのような激変する社会でこれからも活躍する人材はどういった人たちでしょう？これこそが東京農工大学が進めようとしている、社会で活躍する人材育成です。皆さんが過ごした東京農工大学は、創基以来 140 年を超える長い歴史と伝統のもと、世界と競える先端研究力の強化と高度なイノベーションリーダーの育成に力を注ぎ、しなやかに進化しています。

それぞれの専門分野で日々精力的に最先端の研究活動をしている教員と共に未知のサイエンスを学び、幅広い教養を得られる充実したカリキュラムのもと、海外でも様々な経験を踏むことができる環境で、皆さんは育ってきました。皆さんがこれらを十二分に活用したかどうかは、今日は問いません。本日修了する皆さんの中で、36 名の方が博士学位を取得して本学から巣立っていきます。博士学位は世界で通用する「研究者のパスポート」です。学士課程や修士課程を修了する皆さんは是非博士学位を取りに戻って来てください。これからの社会では記憶力はグーグルに勝てませんが、創造する力は人間にしかできないものです。これから皆さんが再び本学で学びなおす気持ちになったときは、我々は皆さんを暖かく迎えます。社会に出るまでは何が要求されているのか分からないことが多いのですが、出てからそれらを知っても遅くはありません。人生は長いのです。知ってはいながら惰性で日々を過ごすよりも、一大決心をして大学院博士後期課程で自らをさらに磨き上げる選択をして下さい。そして、これからの社会をリードするリーダーになって思う存分活躍して下さい。

次に皆さんに会う時には、さらに成長した頼もしい姿を見ることができると期待しています。そして本学も皆さんの母校として誇れるよう、またいつでも皆さんのお手伝いが最高の形で出来るよう、様々な挑戦的取り組みやグローバル・イノベーションを推進して、社会の役に立ち、世界に認知される実力ある大学づくりに一層の努力をしてまいります。これからも同窓会活動やそれぞれの仕事を通して互いの交流が

有意義に深まることを願い、そして最後にもう一度皆さんの今後の健闘・活躍を心よりお祈りし、告辞と致します。

平成 29 年 9 月 20 日

東京農工大学長 大野 弘幸